

学校名 豊島区立さくら小学校

校長名 田中 亮太

学校の教育目標

- ・ 思いやりのある子（徳）・・・周囲の状況や相手の気持ちを考え、行動する。
- ◎ 考える子（知）・・・課題を主体的・対話的に追究し、実生活に生かそうとする。※ R8 重点目標
- ・ やりとげる子（徳）・・・学んだ知識や技能を活用し、課題に粘り強く取り組む。
- ・ 元気な子（体）・・・心身の健康について理解し、その向上に進んで取り組む。

学力に関する目指す児童像

- ・ 自分で問いをもち、深く学ぶ子
- ・ 対話や協働を通して人と関わり、考えを広げ、深める子
- ・ 学んだことを、生活や社会に生かす子

授業改善推進プランの全体像

考え、実行する力を育む教育活動

～主体的・対話的で深い学びの実現～

授業改善の6つの視点

① 問いを大切にしたい
探究的な学び

子どもが問いをもち、課題を見つけ、解決に向けて探究する学びを大切にします。

② 対話や協働を生かした
学び

考えを伝え合い、比べ合い、高め合う対話や協働の場を充実させます。

③ 個に応じた学びと
支援の充実

一人一人の理解やペースに応じた学びと、きめ細かな支援を行います。

④ ICTの効果的な
活用

学びの幅を広げ、考えを整理したり、表現したりする力を育てます。

⑤ 「教わる」から
「自ら学ぶ」授業へ

子どもが見通しをもち、自分の学びを振り返り、次の学びにつなげます。

⑥ 教科担任制・
チーム学校の充実

教職員が専門性を生かし、連携・協働して、子どもたちの学びと成長を支えます。

学びのプロセス（授業の流れのイメージ）

① 課題の設定
（問いをもつ）

疑問や気付きから課題を見つけ、学習の見通しをもつ。

② 情報の収集・整理
（調べる・考える）

調べたり、資料を集めたりして、情報を整理し、考えを深める。

③ 対話・協働
（伝え合う）

自分の考えを伝え合い、友達の考えから学び、広げたり深めたりする。

④ まとめ・表現
（まとめる・伝える）

学んだことをまとめ、表現し、自分の言葉で伝える。

⑤ 振り返り・次へ
（つなげる）

学びを振り返り、できたことや課題を確認し、次の学びにつなげる。

子どもの学びを支える体制

教職員の連携・協働

情報共有や教材研究を通して、組織的に授業を改善します。

家庭・地域との連携

保護者や地域と連携し、子どもたちの学びや成長を支えます。

安心して学べる環境づくり

互いを認め合う学級・学校づくりや、安全・安心な環境の中で、子どもが力を発揮できるようにします。

評価の工夫・改善

子どもの学びの過程を大切に、成長を認め、次の学びにつながる評価を行います。

令和 8 年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
○言葉の働きや特徴に気付き、目的や意図に応じて国語の知識や技能を活用する力。 ○自分で問いをもち、文章や事柄を筋道立てて考え、対話や協働を通して考えを広げ、深める力。 ○言葉による見方・考え方を働かせ、学んだことを日常生活や社会で生かそうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	自己紹介の活動を通して仲間作りをした。	新しい人間関係の構築のために、自分の名前を記入したカードを利用して自己紹介をすることで、伝えあう力を高められるように指導する。
低	- 読書に親しみ、様々な文章に触れることを楽しむ児童が多い。 - 文章を書く際に、助詞や拗音、撥音、促音などの文法的な表記について正しく使うことに課題が見られる。	- 読み聞かせの機会を計画的に取り入れ、様々な文章に触れることで、読書への興味・関心を高める。 - 助詞・拗音・撥音・促音などの表記の定着を図るため、日記や作文、観察カードなどの継続的な書く活動や音読活動を充実させる。 - 間違いやすい表記について全体で確認する場を設けるとともに、個に応じた声掛けや支援を行い、正しい表記を意識して書く習慣を身に付けられるようにする。
中	- 助詞や拗音・撥音・促音、カタカナなど、基礎的な表記の定着に課題が見られる。 - 説明的な文章を読む際に、文章全体を捉えながら内容を正確に読み取ることに課題が見られる。また、学習課題に対して主体的に取り組む姿勢が十分ではない児童も見られる。 - 相手や目的を意識して文章の構成を考え、自分の考えを分かりやすく表現することに課題が見られる。	- 図書室や朝の読書活動を計画的に活用し、読書に親しむ機会を充実させることで、語彙力や読解力の向上を図る。 - 書く活動では、目的に応じた文章例を提示するとともに、日記や作文などを書く機会を継続的に設定し、助詞や拗音・撥音・促音、カタカナなど、基礎的な表記の定着を図る。 - 授業や家庭学習において音読を継続的に取り入れ、文章の内容を正確に捉える力や語彙の定着を図る。 - 実物や写真、映像などを効果的に活用し、児童が学習内容を自分事として捉えられる授業づくりを進めるとともに、自ら問いをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、授業構成を工夫する。
高	- 基礎的な漢字や語句、文章の内容把握など、知識・技能は概ね定着している。 - 文章全体から必要な情報を読み取る力も身に付いている児童が多い。 - 複数の情報を関連付けて考えたり、自	「どの叙述を根拠にしたのか」「なぜそのように考えたのか」を説明する活動を授業に位置付け、ペアやグループでの交流を通して、自分の考えを根拠を基に表現する力を高める。 - 記述問題では、目的や条件を確認した上で、「根

	分の考えを根拠を示して記述したりする問題では課題が見られる。	拠→考え→まとめ」の構成を意識した書き方を継続的に指導し、自分の考えを分かりやすく表現する力を育成する。 ・ ICT 機器を活用して文章への書き込みや情報整理、考えの共有を行い、多様な考えに触れながら、自分の考えを深めたり見直したりする学習を充実させる。
--	--------------------------------	--

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
○社会的事象との関わりから問いを見いだし、資料を基に多角的・多面的に考え、主体的に社会の課題を解決する力。 ○対話や協働を通して考えを広げ、深め、社会の見方・考え方を育む力。 ○地域や社会への理解を深め、学んだことを生かしてよりよい社会づくりに参画しようとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・ 都道府県や東京都、豊島区について関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・ 資料を読み取る力が十分ではなく、必要な情報を適切に読み取る力に課題が見られる。 ・ 複数の資料を使った調べ学習では、一つ一つの資料から必要な情報を見つけることはできるものの、調べる目的に合わせて情報を選んだり、複数の資料を比べたり結び付けたりしながら、自分なりに考えをまとめることに課題が見られる。	・ 資料の見方や読み取り方を段階的に指導し、資料から必要な情報を正確に読み取る力の育成を図る。 ・ 学習内容に応じて、図書資料やデジタル教材など複数の情報源を活用し、目的に応じて必要な資料を選択するとともに、情報を整理・活用する力の育成を図る。 ・ 調べた内容を整理してまとめ、友達と伝え合う協働的な学習活動を充実させることで、多様な考えに触れ、自分の考えを広げ、深める力を育成する。
高	・ 国土や産業に関する基礎的・基本的な知識は概ね定着しており、特に工業や情報産業に関する内容では高い理解が見られる。 ・ 資料から必要な情報を読み取る力や、基礎的・基本的な知識を身に付けている児童が多い。 ・ 複数の資料を関連付けて考察する問題や、根拠を基に理由を説明する記述問題について課題がある。 ・ 農業・水産業に関する内容や、資料を比較・考察する問題、思考・判断・表現を要する問題では、正答率がやや低い。	・ 農業・水産業などの学習では、写真や地図、統計資料など複数の資料を比較・関連付けながら考える学習活動を取り入れ、資料を根拠に考察する力を育成する。 ・ 「なぜそう考えたのか」「資料のどこから分かるのか」を説明する場面を授業に位置付け、ペアやグループでの対話を通して、自分の考えを整理・表現する機会を充実させる。 ・ 授業の終末では学習内容を振り返る時間を設け、学習した知識を活用して自分の言葉でまとめる活動や、記述問題に取り組む機会を計画的に設定する。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
○数量や図形について問いをもち、数学的な見方・考え方を働かせ、根拠をもって筋道立てて考え、表現する力。 ○対話や協働を通して考えを広げ、深め、よりよい解決方法を見いだす力。 ○身に付けた知識や考え方を生活や他の学習に生かし、主体的に課題解決に取り組もうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・身近なものを題材に数を取り上げ、数への興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・具体物を操作し、ものと数を一対一に対応させる活動を通して、数の多少や数量の概念を捉えられるようにする。	・「数合わせゲーム」などのゲームや手遊びを取り入れ、楽しみながら数に慣れ親しむ活動を充実させ、「数の大小」の学習につなげる。
低	・10のまとまりを基に数を構成したり、合成・分解したりする力に課題が見られる。 ・数の大きさや構成を理解し、100以上の数を適切に捉える力に課題が見られる。 ・量と単位の間接関係を理解し、日常生活の場面と結び付けて量を捉える力に課題が見られる。	・ブロックなどの具体物を操作したり、図や絵に表したりする活動を繰り返し行い、具体物から半具体物、図や式へと段階的につなげながら、数の構成や計算の定着を図る。また、10までのたし算・ひき算や、1桁同士の繰り上がり・繰り下がりの計算練習に継続的に取り組ませ、確実な習得を図る。 ・量の感覚を養うため、児童の生活に関連した身近な題材を取り上げ、実際の量を予想したり、およその見当を付けたりする活動を取り入れることで、量を捉える力の育成を図る。
中	・基本的な計算技能や数の理解は概ね定着している。しかし、数直線や分数など数量の意味を問う問題では課題がある。 ・三角形や四角形など基本的な図形の性質は理解できている児童が多い。一方、図形を構成する要素に着目して判断する問題では個人差が見られる。 ・表やグラフから必要な情報を読み取り、比較・判断する問題で課題が見られる。	・数と計算では、小数や除法の意味を図や数直線と関連付けながら理解を深めるとともに、計算の仕方だけでなく、その理由を説明する活動を充実させる。 ・図形では、図形の性質を根拠として説明したり、作図したりする学習を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・測定やデータの活用では、算数科だけでなく、理科や社会科、総合的な学習の時間等、他教科等における学習とも関連付けながら、資料やデータから必要な情報を読み取り、根拠を基に説明する活動を充実させる。
高	・基本的な計算や数の概念については概ね理解できている。	・数と計算領域では、計算技能の定着を図るとともに、「なぜその計算になるのか」を図や式を用い

	・概数や数の大きさの理解、文章から式を立てる問題では正答率がやや低く、既習事項を場面に応じて活用する力に課題が見られる。 ・図形領域では、図形の性質を根拠に説明したり、複数の情報を関連付けて考えたりする問題では、さらに思考力や判断力、表現力を伸ばす余地がある。 ・データの活用では、資料を読み取り、根拠をもって判断・説明する力に課題が見られる。	て説明する学習を充実させる。 ・図形領域では、図形の性質を根拠として説明したり、複数の情報を関連付けて考えたりする活動を充実させ、論理的に思考し表現する力を育成する。 ・データの活用では、表やグラフ、資料から必要な情報を読み取り、根拠を基に説明する活動を、理科や社会科、総合的な学習の時間等、他教科等の学習とも関連付けながら充実させる。
--	--	--

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
○自然の事物や現象との関わりから問いをもち、観察や実験を通して根拠をもって考え、科学的に理解する力。 ○友達と予想や考察を交流し、対話や協働を通して考えを広げ、深め、問題解決を進める力。 ○自然の不思議やよさに気づき、学んだ科学的な見方・考え方を生活や社会に生かそうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・自然の事物や現象に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・観察や実験で得られた結果を基に、それらを比較したり関係付けたりしながら、自然の事物や現象について考え、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・身近な自然事象や生活との関連を意識した教材提示を工夫し、児童が問いをもち、主体的に問題解決に取り組むことができる授業づくりを進める。 ・一人一人が観察や実験を十分に行えるよう、少人数での活動や体験的な学習を充実させ、科学的な見方・考え方を働かせる力の育成を図る。 ・観察や実験の結果を整理し、考察する活動や友達と考えを交流する活動を充実させ、根拠を基に自分の考えを表現する力を育成する。
高	・観察・実験に関する基本的な知識や用語の理解は概ね定着している。 ・実験結果から考察したり、科学的な根拠を基に説明したりする問題で課題が見られる。 ・複数の情報を関連付けて説明する問題で課題が見られる。	・観察・実験では、結果を整理するだけでなく、「結果から何が分かるか」「なぜそのように考えたのか」を考察する場面を充実させ、科学的な根拠を基に説明する力を育成する。 ・「予想→観察・実験→結果→考察」の学習過程を重視し、結果と根拠を結び付けて説明する活動や、自分の考えを交流する場を継続的に設定する。 ・ICT機器を活用して実験結果を共有・比較したり考察を可視化したりすることで、多様な視点から

		考えを深め、科学的な見方・考え方を働かせる学習を充実させる。
--	--	--------------------------------

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
○身近な人々や自然、社会との関わりから問いや気づきをもち、自分自身や生活について考え、発見したことを豊かに表現する力。 ○友達や地域の人との対話や協働を通して気づきや考えを広げ、深める力。 ○活動や体験を通して身近なものの良さや自分との関わりに気づき、学んだことを生活に生かし、よりよい生活を創造しようとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・入学前の生活経験や育ちの状況には個人差があり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の実現状況にも違いが見られる。 ・学校探検を通して、校舎内の様子や上級生の学習する姿に触れることで、小学校生活への興味・関心を高め、期待をもって学校生活を始めることができた。	・幼児期の学びや生活を大切に受け継ぎ、その上に小学校での学習や生活を段階的に積み重ねることで、児童が安心して学校生活に適應できるようにする。 ・学級づくりの時間、生活科を中心とした合科的な学習、各教科の学習を柔軟に組み合わせ、学校生活のきまりや学習の進め方を理解し、無理なく小学校生活に慣れることができるようにする。
低	・身近な人や自然、社会、学習教材に興味・関心をもち、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・活動や体験を通して気付いたことや考えたことを、絵や文章で表現したり、相手に分かりやすく伝えたりすることに課題が見られる児童がいる。	・児童の思いや願いを基に学習活動を構成し、自分で問いをもち、主体的に探究できる授業づくりを進める。 ・学習教材との出会いを工夫し、児童が気づきや疑問を生み出し、活動への意欲を高められるようにする。 ・探究の目的や方向性を明確にするため、児童がめあてを意識しながら見通しをもって学習に取り組めるようにする。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
○音楽のよさや美しさに気づき、自分なりの問いや思いをもちながら、音楽の仕組みや表現の工夫について深く学ぶ力。 ○友達と音楽を創ったり表現したりする活動を通して、対話や協働により考えや感じ方を広げ、深める力。 ○音楽を通して得た感性や表現する力を生活や社会に生かし、豊かに関わろうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・めあてを意識しながら、楽しく身体を動かしたり、歌ったり、演奏したりするなど、意欲的に音楽活動に取り組む	・感じたことや気付いたことを言葉で表現できるよう、表現に役立つ言葉を掲示し、児童が目的に応じて選んで活用できるようにする。

	児童が多い。 ・音楽を通して感じたことや気付いたことを、言葉で表現したり、友達に伝えたりすることに課題が見られる。	・音楽活動の中で友達と感じたことや考えを伝え合う交流の場を計画的に設定し、多様な表現に触れながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
中	・学習の見通しをもち、自分の思いや意図を大切にしながら、主体的に歌唱や器楽などの音楽活動に取り組むことができる児童が多い。 ・自分の思いや意図を、歌い方や演奏の仕方など音楽表現として表す技能に課題が見られる。	・学習の見通しをもって主体的に取り組めるよう、題材全体を見通せるワークシートや板書を工夫し、学習の流れやめあてを意識できるようにする。 ・楽器に触れたり、どのように歌ったり演奏したりしたいかを考えたりする時間を十分に確保し、実際に試行錯誤しながら、自分の思いや意図に合った音楽表現を工夫できるようにする。
高	・曲想や音楽の特徴を感じ取り、自分の思いや意図をもって表現することができる児童が多い。 ・自らの学習を振り返り、次時の課題や目標を見いだしながら学習に取り組むことができる。 ・グループ活動では、一部の児童の意見に偏ることがあり、互いの考えを生かしながら協働して表現を工夫することに課題が見られる。 ・歌唱や器楽などの表現に必要な技能には個人差があり、一人一人の実態に応じた支援が必要である。	・グループ学習では、ワークシートを活用して一人一人が自分の考えを整理する時間を確保した上で、互いの意見を共有し、協働して表現につなげられるようにする。 ・歌唱や器楽の基礎的・基本的な技能の定着を図るため、一人一人の習熟度に応じた練習方法や教材を工夫し、個に応じた指導を行う。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
○造形的なよさや美しさに気付き、表したいことや問いをもち、材料や方法を工夫して創造的に発想・構想し、表現する力。 ○友達と作品や表現の意図を伝え合い、対話や協働を通して考えや感じ方を広げ、深める力。 ○作品や造形活動を通して培った感性や表現力を生活や社会に生かし、豊かに関わろうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・造形活動に興味・関心をもち、意欲的に表現活動に取り組む児童が多い。 ・感じたことや思ったことを積極的に発信し、自分の表現を伝えようとする姿が見られる。	・授業の導入では、見本作品を鑑賞したり、表したいことをじっくり考えたり、用具や材料に触れたりする時間を十分に確保し、表現への意欲を高める。 ・友達の作品を見合い、互いの表現のよさや工夫に気付く鑑賞の時間を設定する。 ・これまでに学習した技法や表現の工夫を振り返

	・表したいことを具体的に考えたり、材料や方法を工夫しながら発想・構想したりする力に課題が見られる児童がいる。	る場を設け、友達のよい表現を参考にしながら、自分の表現に生かせるようにする。
中	・自分のつくりたいもののイメージをもち、その実現に向けて意欲的に表現活動に取り組む児童が多い。 ・活動を通して学んだことや工夫したこと、できるようになったことを、具体的な言葉で振り返り、表現する力に課題が見られる。 ・制作の見通しをもって時間を配分することに課題があり、作品を最後まで完成させることが難しい児童がいる。	・題材ごとに、制作から振り返りまでの学習の見通しをもてるよう、スケジュールを分かりやすく提示する。 ・ワークシートを活用し、作品完成までの手順や時間配分を自分で考え、計画的に制作に取り組む時間を設定する。 ・友達の作品を鑑賞したり、制作の進み具合を交流したりする時間を設け、互いの工夫やよさに気付くことができるようにする。 ・振り返りの視点を明確に示し、できたことや工夫したことを言葉で表現する活動を充実させる。
高	・めあてを意識し、自分の思いや願いを基に作品づくりに取り組むことができる。 ・活動を振り返り、できたことや工夫したこと、今後の課題を自分の言葉で表現することができる。 ・作品づくりで感じたことや考えたことを交流し、互いの表現のよさを認めたり、自分の考えを広げたりすることに課題が見られる。 ・表したいイメージを具体化し、材料や方法を工夫しながら、よりよい表現を追求して最後まで取り組む力に課題が見られる。	・児童一人一人の表現のよさや課題に応じて、適切な課題を設定したり、必要な助言や支援を行ったことで、自分の思いを生かした表現活動を充実させる。 ・表現の方法や工夫の幅を広げるため、これまでに学習した技法や表現方法を振り返る活動を取り入れるとともに、児童の実態に応じた個別の支援を行う。 ・安心して自分の思いや考えを表現できる学習環境を整え、ペアや小グループでの発表・交流から段階的に取り組むことで、互いの表現のよさを認め合いながら伝える力を育成する。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
○日常生活の中から問いや課題を見だし、生活に必要な知識や技能を活用して考え、実践する力。 ○対話や協働を通して考えを広げ、深め、よりよい生活を創造する力。 ○学んだことを生活に生かし、主体的によりよい生活を創造するとともに、持続可能な社会づくりに関わろうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・製作や調理などの実習活動に主体的・意欲的に取り組んでいる。	・製作や調理の実習では、活動の見通しがもてるよう、手順を視覚的に提示するとともに、実演を取り入れながら指導を行う。

	・技能の習得状況には個人差が見られるため、個に応じたきめ細かな指導・支援が必要である。 ・学習した知識や技能を家庭生活に生かす姿が見られ、実践的な態度が育っている。	・技能の習得状況に応じて個別指導や少人数での支援を充実させ、一人一人が確実に技能を身に付けられるようにする。 ・児童同士が学び合い、教え合う場面を設定することで、技能の定着と主体的な学びを促進する。
--	---	--

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
○運動の特性や楽しさに触れ、自分の課題や目標を見だし、運動の行い方を工夫して主体的に取り組む力。 ○友達と考えや動きの工夫を伝え合い、対話や協働を通して技能や考えを広げ、深める力。 ○学んだことを生活に生かし、生涯にわたって心身の健康を大切にしようとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・体を動かすことの楽しさや運動遊びのよさを感じながら、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・自分の運動技能を高めることに意識が向きやすく、友達のよい動きを見付けたり、考えたことを伝え合ったりすることに課題が見られる。	・友達と一緒に運動遊びに取り組む場面を設定し、対話や協働を通して基本的な動きを身に付けられるようにする。 ・友達のよい動きを見付ける活動を通して、自分の運動に取り入れたり、新しい動きや楽しさを発見したりできる学習を充実させる。
中	・個人種目では、運動の特性に応じた動きの工夫を考え、主体的に学習に取り組む児童が多い。 ・勝敗への意識が強くなりやすく、互いのよさや努力を認め合いながら、協力して学習を進めることに課題が見られる。 ・自分の課題や目標を明確にもち、友達と動きを見合ったり、考えを伝え合ったりしながら技能や考えを深める力に課題が見られる。	・学習のめあてを明確に示し、一人一人が自分の課題や目標を意識しながら、主体的に運動に取り組めるようにする。 ・作戦や動きの工夫について話し合ったり、互いに教え合ったりする活動を計画的に取り入れ、友達のよさを認め合いながら、協働して学びを深める態度を育成する。 ・学習カードや振り返り活動を活用し、自分や友達の成長、動きのよさや課題に気付く機会を充実させ、次の学習に生かす力を育成する。 ・勝敗を受け入れるとともに、協力して取り組む過程や仲間との関わりを価値付け、互いに励まし合いながら学習に取り組む姿勢を育てる。
高	・チームで協力しながら技能を高めようとする意欲が高く、仲間と関わりながら運動に取り組む姿が見られる。	・自分の動きと手本となる動きをタブレット画面上で比較したり、友達からのアドバイスを受ける活動を通して、自分では気付きにくい課題を発見し、改善につなげる力を育成する。 ・「動きの工夫」「改善点」「作戦」について互いに伝え合う場面を設定する。

	・自分の動きや課題を客観的に振り返り、改善につなげる力には個人差が見られる。 ・運動の工夫や作戦について、友達と考えを伝え合いながら学びを深める活動をさらに充実させる必要がある。 ・泳力には個人差が大きいため、一人一人の技能や達成状況に応じた課題設定や支援が必要である。	・対話を通して考えを広げ、技能の向上につなげる。 ・泳力や技能の到達度に応じたグループ分けやコース設定を工夫し、一人一人が自分の課題に応じて十分に練習に取り組める時間を確保する。
--	---	--

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
○外国語によるコミュニケーションの中で問いや目的をもち、知識や技能を活用して自分の考えや気持ちを表現する力。 ○対話や協働を通して考えや気持ちを伝え合い、多様な見方や考え方に触れながらコミュニケーションを深める力。 ○外国語や文化への理解を深め、学んだことを生活や社会で生かし、主体的に関わろうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・外国語の歌やゲーム、コミュニケーション活動を楽しみながら、意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・ALTの英語による指示や説明を聞き取り、活動内容を理解して行動することに難しさを感じる児童がいる。	・挨拶や簡単な表現を使ったコミュニケーションに慣れ親しむことができるよう、チャンツなどの繰り返し活動を取り入れ、外国語を使う機会を充実させる。 ・ALTの指示や説明を児童が理解しやすいよう、担任が補足したり、活動の流れを確認したりしながら支援を行い、安心して活動に取り組めるようにする。
中	・英語の歌や友達とのコミュニケーション活動に意欲的に取り組み、外国語を使って表現することを楽しむ児童が多い。 ・発音などに自信がなく、声が小さくなってしまう児童がいる。	・児童が主体的に外国語活動に参加できるよう、視覚教材やゲーム的な活動を効果的に取り入れ、楽しみながら学べる授業づくりを行う。 ・一人一人が外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図れるよう、ペア活動やグループ活動を充実させ、互いに伝え合う機会を増やす。
高	・英語によるコミュニケーション活動に意欲的に取り組み、友達とのやり取りを楽しむ児童が多い。 ・アルファベットの大きい文字・小さい文字の判別や、四線上の文字の位置を正しく理解して書くことに課題が見られる児童がいる。	・英語を使って伝え合う必然性のある言語活動を充実させ、児童が主体的にコミュニケーションを図る機会を継続的に設定する。 ・アルファベットの大きい文字・小さい文字の判別や四線上の文字の位置については、視覚教材やデジタル教材を活用し、繰り返し書く活動を取り入れることで、基礎的な技能の定着を図る。

・既習の語句や表現を組み合わせて、自分の考えや気持ちを表現することに課題が見られる。	・既習の語句や表現を組み合わせて活用する活動を段階的に設定し、ペアやグループでの対話を通して表現の幅を広げる。
--	---

Ⅱ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
○道徳的価値について自分との関わりで考え、問いをもち、よりよく生きるための考えを深める力。 ○対話や協働を通して多様な考えや価値観を理解し、よりよい判断や行動を選択する力。 ○学んだ道徳的価値を生活や社会で生かし、よりよく生きようと実践する態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・道徳的価値や教材の内容に関心をもち、自分の考えを発言したり、ワークシートに表現したりするなど、互いの考えを伝え合うことができる児童が多い。 ・教材から考えたことを自分自身の生活や経験と結び付け、ねらいとする道徳的価値を自分事として捉え、考えを深めることに課題が見られる児童がいる。	・学級全体で考えを交流する時間を大切にし、一人一人の感じ方や考え方の違いに触れながら、道徳的価値について理解を深める機会を充実させる。 ・一般化の時間を十分に確保し、学習した道徳的価値を自分の生活と結び付け、これからの自分の行動について具体的に考えられるようにする。 ・授業で考えたことを日常生活の場面と関連付けて振り返ることができるよう、児童への問い掛けや声掛けを工夫する。
中	・登場人物の心情や状況に寄り添いながら、ねらいとする道徳的価値について自分なりに考え、表現することができる児童が多い。 ・道徳的価値について理解することはできているが、日常生活の中でその価値を自分の行動と結び付け、状況に応じて適切に判断・実践する力に課題が見られる。 ・友達の考えや異なる価値観を受け止め、多様な見方や考え方に触れながら、自分の考えを深める力には個人差が見られる。	・道徳的価値について考えるだけでなく、日常生活の具体的な場面や自分自身の経験と結び付けて考える活動を充実させ、学習内容を自分事として捉え、実生活に生かそうとする態度を育成する。 ・役割演技や対話的な学習活動を取り入れ、多様な考えや感じ方に触れながら、よりよい判断や行動について主体的に考える機会を充実させる。 ・友達の考えを認め合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする交流活動を継続的に設定し、多面的・多角的に考える力を育成する。
高	・登場人物の心情に寄り添ったり、道徳的価値に基づいて考えたりすることができる児童が多い。 ・実生活においては、感情に流されてしまい、状況に応じた適切な判断や行動につなげることに課題が見られる児童	・道徳的価値について考えるだけでなく、日常生活の具体的な場面と結び付けて考える活動を充実させる。 ・自分の考えを振り返り、実際の行動につなげるための自己評価や振り返りの時間を設定する。 ・役割演技や対話的な活動を取り入れ、多様な考え

	童がいる。	に触れながら、よりよい判断や行動について考える機会を増やす。
--	-------	--------------------------------

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
○生活や社会との関わりから問いや課題を見だし、情報を活用しながら探究的に考え、表現する力。 ○対話や協働を通して多様な考えや価値に触れ、考えを広げ、深め、課題を解決する力。 ○探究的な学びで得た気づきや考えを生活や社会に生かし、よりよい社会づくりに主体的に関わろうとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・学習テーマに関心をもち、各教科等で身に付けた知識や技能を関連付けながら、教科等横断的な視点で主体的に学習に取り組む児童が多い。 ・自ら問いを見だし、課題解決に向けて必要な情報を収集・整理・分析しながら、探究的に学習を進める力に課題が見られる。 ・調べて分かったことや自分の考えを、相手や目的を意識して整理し、分かりやすく表現・発信する力に課題が見られる。	・問いを基に学習計画を立て、情報の収集・整理・分析・まとめ・振り返りという探究の過程を児童自身が意識しながら学習を進められるよう、授業展開を工夫する。 ・一つの探究活動で終わるのではなく、振り返りから新たな問いや課題を見だし、次の探究につなげることで、探究のサイクルを繰り返しながら学びを深められるようにする。 ・地域や実生活とのつながりを意識した学習活動を設定し、課題を自分事として捉え、主体的に探究しようとする態度を育成する。 ・調べたことや自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすく表現・発信する場を計画的に設定するとともに、対話や交流を通して考えを広げ、深める学習活動を充実させる。
高	・調べた情報を整理・取捨選択し、分かりやすくまとめることができる児童が多い。 ・調べた内容を基に考えを広げ、学びを深めることができる。 ・自ら新たな課題を見つけ、探究を発展させることに課題が見られる。 ・調べて分かったことや自分の考えを、相手に分かりやすく伝える力に課題が見られる。	・児童自身が問いを見い出せるよう、課題設定の場面で多様な気づきや疑問を引き出す活動を充実させる。 ・「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り」という探究のサイクルを児童自身が意識しながら学習を進められるようにするとともに、振り返りから新たな課題や問いを見だし、次の探究につなげることで、探究の過程を繰り返しながら学びを深められるようにする。 ・情報を整理・分析し、新たな課題につなげる探究の過程を大切にする。 ・発表や交流の機会を増やし、相手意識をもって分かりやすく伝える力を育成する。 ・ICT等を活用し、考えの整理や発信方法を工夫する。

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
○集団の一員として自分の役割や責任を自覚し、互いのよさや違いを認め合い、よりよい人間関係や集団生活を築く力。 ○問いや課題をもち、対話や協働を通して考えを広げ、深め、合意形成や意思決定を行う力。 ○学んだことを学校生活や社会に生かし、よりよい集団や社会づくりに参画しようとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・当番活動や係活動に責任をもって取り組み、自分の役割を果たそうとする児童が多い。 ・学校行事に関心をもち、意欲的に参加する姿が見られる。 ・学級や集団の課題を自分たちで見だし、話し合いや活動を通して解決を図るなど、自治的に活動する経験が少ない。	・小集団での話し合い活動を計画的に設定し、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする機会を充実させる。 ・児童から課題や話題を引き出し、一人一人が自分の考えをもち、主体的に話し合いに参加できるよう支援する。 ・学級生活の中から課題を見だし、児童が話し合って解決方法を考え、実践する自治的な活動の機会を充実させる。
中	・当番活動や係活動に意欲的に取り組み、集団の一員として自分の役割や責任を果たそうとする児童が多い。 ・学校行事では、目標の達成に向けて友達と協力しながら、主体的に活動に取り組む姿が見られる。 ・話し合い活動では、学級をよりよくしようと自治的に取り組む姿が見られる一方で、十分に話し合う時間を確保することや、児童主体で合意形成を図る力に課題が見られる。	・一人一人が役割や責任を果たす場を計画的・継続的に設定し、集団の一員として主体的に活動する態度を育成する。 ・学級活動や学校行事において、友達と対話しながら共通の目標に向かって協働する機会を充実させ、互いのよさを認め合いながら活動する力を育成する。 ・話し合いの時間を計画的に確保するとともに、教員が適切な支援を行いながら、児童自らが課題を考え、話し合い、合意形成や意思決定を行う自治的な活動を充実させる。
高	・当番活動や委員会活動に主体的に取り組む児童が多い。 ・リーダーシップの育成や規範意識の向上が必要な児童が一部見られる。 ・学校行事への参加意欲に差が見られる。 ・話し合い活動において、自分の考えを伝え合い、合意形成を図る力に課題が見られる。	・一人一人が役割や責任を果たす場を意図的に設定し、主体的に活動する態度を育成する。 ・学級活動や学校行事を通して、リーダーシップや規範意識を育む指導を充実させる。 ・児童が達成感や自己有用感を味わえる活動を工夫し、学校行事への参加意欲を高める。 ・話し合いの進め方や合意形成の方法を段階的に指導し、建設的に話し合う力を育成する。

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・ 交流及び共同学習の活動に関心を持ち、友達との関わりを楽しみながら、意欲的に参加する姿が見られる。 ・ 相手の話を最後まで聞いたり、相手の思いや考えを受け止めたりしながら関わる力に課題が見られる。	・ ペアや小グループでの伝え合いの活動を計画的に取り入れ、互いの考えや気持ちを共有する協働的な学びの機会を充実させる。 ・ 話型や具体的な表現例を提示し、話合いの進め方が分からない児童も安心して自分の考えを伝えられるよう支援する。 ・ 全体での振り返りや交流の場を設定し、友達の考えや感じ方に関心をもって聞く態度を育成するとともに、相手を理解しようとする力を育てる。
中	・ 交流及び共同学習の機会を通して、友達と協力しながら活動に取り組もうとする児童が多い。 ・ 相手との関わり方には個人差があり、誰とでも安心して関係を築き、状況に応じた適切なコミュニケーションを図る力に課題が見られる。 ・ 相手の話を最後まで聞き、互いの考えや気持ちを受け止めながら学び合う態度の育成に課題が見られる。	・ 個人で考える時間を十分に確保した上で、ペアや小グループでの交流活動を計画的に取り入れ、安心して自分の考えを伝え合える学習環境を整える。 ・ 他者と学び合う際のルールや望ましい関わり方を具体的に示し、互いの考えやよさを認め尊重しながら活動する態度を育成する。 ・ 学習や交流活動の振り返りを通して、自分や友達のよさや課題に気づき、よりよい人間関係づくりや協働的な学びにつなげる。
高	・ 課題に対して自分の考えを形成したり、考えを深めたり広げたりすることに課題が見られる。 ・ 自分の考えや思いを相手に伝えることに消極的な児童が多い。	・ 児童が自分の考えをもつことができるよう、課題提示や資料提示を工夫し、考える時間を十分に確保する。 ・ ペアやグループでの交流活動を取り入れ、安心して自分の考えを表現できる場を設定する。 ・ ICT やワークシート等を活用し、考えを整理・可視化することで、自分の思いを伝える力を育成する。 ・ 対話等によって互いの考えを認め合い、考えを広げたり深めたりする協働的な学びを充実させる。